

# 令和五年度大会宣言

令和元年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、本年五月八日に五類感染症に移行され、学校教育活動への制限が緩和されましたが、引き続き、時々の感染状況に応じた対策を講じていくことが必要です。本会の全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会は、令和二年の誌上開催から三年ぶりに、全国から参加者が集合し開催します。この間、新しい高等学校学習指導要領の実施、スクールポリシーの公表、観点別評価、GIGA スクール構想に基づく一人一台端末の活用により、個別最適化され創造性を育む教育が始まっています。学校教育は、単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、真に必要な教育活動を回復させるとともに、多様な教育実践の工夫を取り入れ、令和の日本型学校教育の構築を目指し、新しい学びへと進化を図っていくことが重要です。

本年六月十六日新たな教育振興基本計画（令和五年度～九年度）が閣議決定され公表されました。将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らがグローバル化する社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく人材の育成が重要であり、「人への投資」が必要です。また、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあるウェルビーイング、日本社会に根ざした調和と協調に基づくウェルビーイングの向上を目指す教育が大切です。五月二十二日の中央教育審議会諮問「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」で、令和四年度実施の教員勤務実態調査の結果、教師の時間外勤務は一定程度改善傾向にあり、学校における働き方改革の成果が着実に現れつつあるものの、依然として長時間勤務の教職員も多く、全国的に教師不足が指摘され、抜本的に教職の魅力を上昇させることが喫緊の課題とされました。六月十六日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2023」では、給特法等の法制的な枠組みを含め、具体的な制度設計の検討を進め、教師の処遇を抜本的に見直し、2024年度中の給特法改正案の国会提出を検討するとされています。このような中で、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、探究・STEAM 教育、文理横断・文理融合教育、誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育、地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育を推進し、教育デジタルトランスフォーメーション（DX）、校務 DX を通じた働き方改革、教育データの分析・利活用の推進を学校教育は行っていきます。

私たち教頭・副校長は、高い識見と広い視野を持ち、常に教育行政の動向を注視しつつ、様々な教育課題の解決に向けて率先して行動し、リーダーシップとマネジメント力を発揮していきます。そのために、研究・研鑽に励み、その成果及び経験と体験を共有し交流する機会を持ち続けます。また、学校運営組織の中心となる人材を発掘・指導・育成し、支援スタッフも活用し、学校の活性化・特色化を図り、よりよい社会づくりに参画する力を育てる教育を推進する覚悟です。

これらのことを銘記し、もって高校教育の充実・発展を期し、次の事項の実現に尽力することをここに宣言いたします。

- 一 多様な人々と協働できる心豊かな生徒を育てる、安全・安心な学校の整備と維持
- 一 思考力、判断力、表現力を備え、主体的に学び、持続可能な社会を創る生徒の育成
- 一 未来につながる学校指導環境の整備と教育 DX の推進、学校組織を担う人材の育成
- 一 教頭・副校長の研究・研鑽の確保、経験・体験を共有する機会の維持と推進

令和五年七月二十七日

第六十二回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会